

津ライスニュース 平成30年産第3報

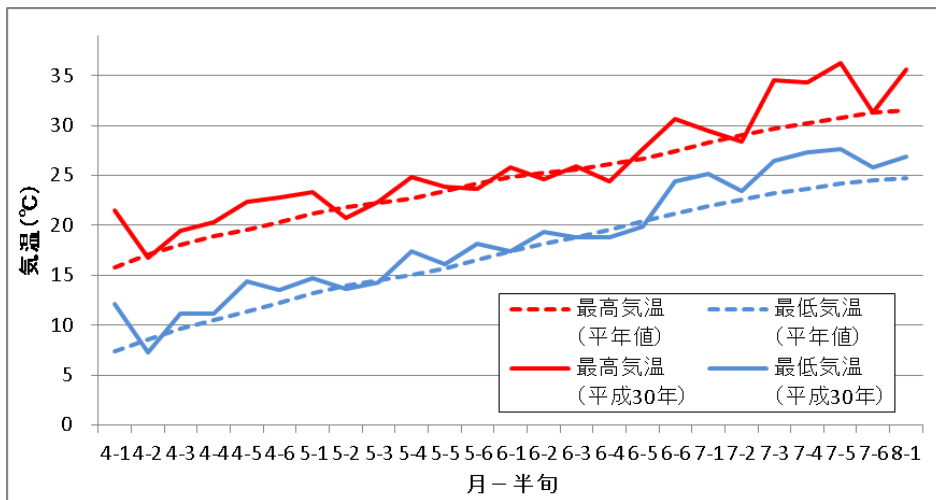
平成30年8月9日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

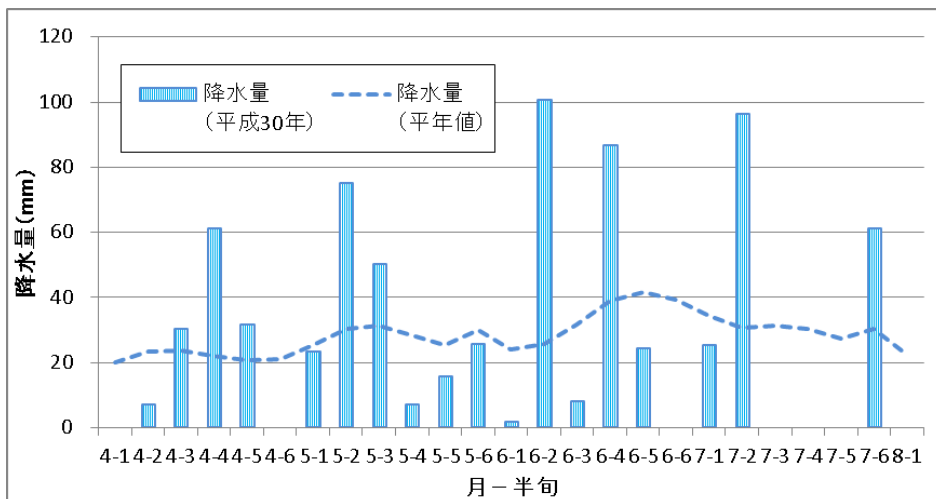
< 気温 >

4月～5月にかけて気温はやや高めでしたが、6月は平年並みとなりました。6月下旬～7月にかけて最高・最低気温とも平年よりかなり高く推移しました。8月に入っても気温は高めに推移しています。



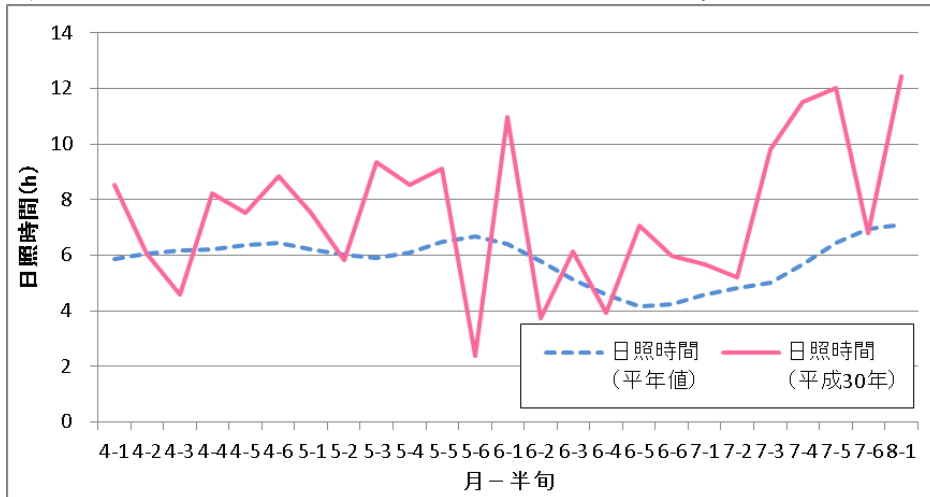
< 降水量 >

7月中旬～下旬にかけて、降雨がない日が続きましたが、7月27日～29日にかけて台風12号の影響でまとまった雨がありました。



<日照時間>

5月中旬に日照時間が短くなった時がありましたが、それ以外の時は、晴れた日が多く、例年より日照時間はかなり長めに推移しています。



生育の概況

天気が良好に進んでいることから、生育状況は早めに推移しています。

農業研究所(嬉野)の作況田でのコシヒカリの生育状況では、平年と比べて草丈はほぼ変わらないものの、茎数は若干少なくなっています。出穂期は、コシヒカリで4日早く、三重23号で3日早くなっています。

葉色が濃い圃場、山や高架によって日照りが悪く、また風通しが悪い圃場などにおいていもち病が目立ちました。7月下旬からイナゴが多くみられます。7月27日~29日の台風12号の影響で一部の圃場で倒伏が散見されました。

水稲生育基準田の調査結果

[平成30年8月6日現在]

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/㎡)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月16日	82.8	18.3	376.5	24.8	7月11日
	白山	4月30日	91.5	18.8	333.3	21.0	7月26日
	安濃	5月10日	82.9	20.1	229.7	16.2	7月28日

水稲生育基準田の調査結果

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/㎡)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月21日	90.8	18.9	332.6	27.1	7月18日
	安濃	4月24日	81.2	19.3	247.0	16.2	7月19日

殿村のデータはH24、H27、H28、H29の平均値

安濃のデータはH28、H29の平均値

農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ

【調査時期: 幼穂形成期】

品種	年度	移植日 (月・日)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	出穂期
コシヒカリ	H30	4月24日	67.5	564	11.2	32.2	7月12日
	平年 (H20~H29)		67.1	594.3	10.9	29.9	7月16日
三重23号	H30	4月24日	58.5	651.1	12.6	29.5	7月8日
	平年 (H20~H29)		63.6	596.4	12.3	37.9	7月11日

今後の栽培管理

<水管理>

- ・水稻の根数は出穂前20日頃に最大となり、出穂期には新根がほとんど出なくなります。水の溜めすぎは根の老化や根腐れの原因となります。出穂後から収穫7日前までの期間は間断灌水を心掛け、根に空気を供給しましょう。水をかける場合はなるべく夕方にしましょう。
- ・早期落水は未熟粒や胴割れ米等の発生を助長し、玄米の品質低下が懸念されます。落水は収穫前7日以降としましょう(玄米の大きさは開花後25日頃に決まります)。

<適期収穫>

- ・穂の基部に緑色籾数が3~4粒程度残る頃が収穫適期です。また、コシヒカリでは籾水分が26~28%の頃が収穫適期となります。
- ・早刈りは未熟粒(青米や充実不足)の増加、刈り遅れは茶米や胴割粒の増加となり、いずれも品質が低下します。本年は、例年に比べ生育が早く進んでいることから、刈取時期の判断が難しいと思われます。品質向上のために適期収穫を励行しましょう。

水稻生育予測

【平成30年8月7日現在】

品種	移植日	出穂期	成熟期	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	7月18日	8月20日	(1.7日早い)
	5月15日	7月28日	8月31日	(1.3日早い)
	6月10日	8月17日	9月26日	(4.3日早い)
三重23号	4月25日	7月13日	8月8日	(7.6日早い)
	5月15日	7月24日	8月21日	(8.3日早い)

三重県農業研究所作成の生育予測システム Ver9.2 による予測です。
気象庁アメダス津観測地点データ(直近10ヶ年の平均気温)を使用
7月、8月の気温を平年より高温として予測している。

<乾燥調製>

- ・高温での急激な乾燥は胴割粒の発生が多くなり、食味の劣化も著しいので、平均の毎時乾減率は0.8%を超えないようにします。特に立毛胴割れが生じている可能性がある場合は、毎時乾減率を0.5~0.6%程度とします。
- ・仕上水分は14.5~15.0%を目標とします。玄米の水分が籾がらに移行するために起こる余熱乾燥と逆に青未熟粒の混入が多い場合に起こる水分の戻り現象があります。青未熟粒の混入割合に応じて乾燥機を止める玄米水分を変える必要があります。
- ・カラムシ類等による着色粒が多い場合は、色彩選別機により等級アップを図りましょう。

<収穫後耕起>

- ・収穫後、台風などの大雨の影響で稲わらの流出が問題となっています。
- ・大雨による稲わらの流出防止、漏生籾等の対策のため、収穫後できるだけ早く浅耕(5cm程度)しましょう。